じゅん菜池にはこんなカメが棲んでいる

・・・ジュンサイを残そう市民の会：2019.・・・

制作：名取史織. 田中直義. 宮城直.

・・・

イシガメ(イシガメ科)：学名-*Mauremys japonica* (Temminck & Schlegel, 1835)：準絶滅危惧種

分布：日本固有種。本州、四国、九州、隠岐諸島、五島列島、対馬、淡路島、壱岐島、佐渡島、種子島.

・上記の分布の一部は人為的に移入された可能性もある。例として馬毛島と屋久島にも分布するが、1980 年代に行われた調査では分布が確認されていなかったため後に人為的に移入されたと考えられている。東北地方でも記録があるが人為分布とされ、分布の北限は関東地方と考えられている。

生態：河川や湖沼・池・湿原・水田などに生息し、やや流れのある流水域を好む。

・半水棲で水生傾向が強い。耐寒性が強く、水温 3 - 5℃の環境下での活動が観察された例がある。冬季になると水中の穴や石の下、堆積した落ち葉の中などで冬眠する。

食性：食性は雑食で、魚類、カエルやその卵および幼生、昆虫、甲殻類、陸棲および水棲の巻貝、ミミズ、動物の死骸、陸上植物・水生植物の葉・花・果実、藻類などを食べる。

・水中でも陸上でも採食を行い、地面に落ちたカキなどの果物やトマトやウリ類などを食べることもある。他のカメ類が産卵している最中に、その卵を食べることもある。糞の中にビワの種を見つけたことがある。

イシガメ：背甲

2019.09.15.じゅん菜池：写真.名取史織

イシガメ：腹甲

2019.09.15.じゅん菜池：写真.名取史織

・・・

クサガメ(イシガメ科)：学名-*Mauremys reevesii* (Gray, 1831)：絶滅危惧ⅠB類

分布：北海道南西部、本州、四国、九州、佐渡島、淡路島、壱岐、隠岐、対馬、五島列島、奄美大島、沖縄島、久島、諏訪之瀬島など、台湾に移入。.大韓民国、中華人民共和国（東部から南東部にかけて、香港）。

・日本の個体群に関しては化石の発見例がなく、最も古い文献でも 200 年前に登場し江戸時代中期以前には本種に関する確実な記録がない。江戸時代や明治時代では希少で西日本や南日本にのみ分布するという記録があることなどから、**朝鮮半島から人為的に移入されたと推定されている。**

生態：流れの緩やかな河川、湖、池沼、湿原、水たまり、水田などに生息する。

・昼行性だが、夏季は薄明薄暮性、夜行性傾向が強くなる個体もいる。日光浴を行うことを好む。陸づたいに水場を移動する個体もいる。

食性：雑食。大型個体は貝類や大型の甲殻類も噛み砕いて食べる。

・主に水中で採食を行う。

クサガメ：背甲

2016.09.18.ジュンサイ池本池：写真.名取史織

クサガメ：腹甲

2016.09.18.ジュンサイ池本池：写真.名取史織

・・・

ウンキュウ(イシガメ科)＝クサガメとイシガメの雑種：学名-*Mauremys　japonica*×*Mauremys　reevesii*

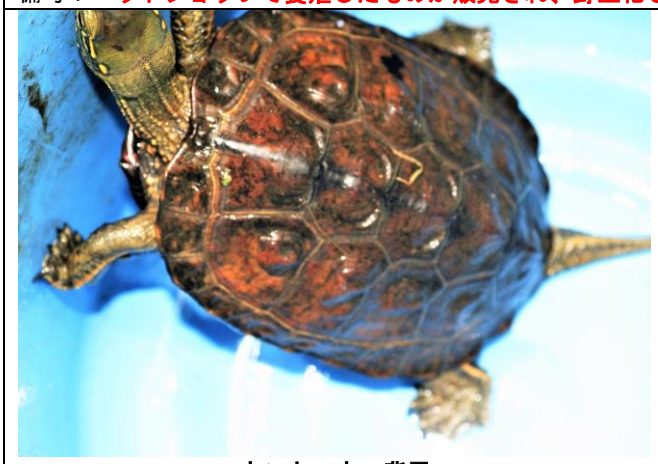
特定外来生物に指定され、飼養・保管・運搬・放出・輸入などが規制されている。

形態：ウンキュウはクサガメに近い特徴を持つもの、ニホンイシガメに近い特徴を持つもの、両者の中間的特徴を持つものなど、バリエーションが豊富である。

・一般的に種間交雑により生まれる雑種には正常な繁殖能力を持たないものが多いが、ウンキュウでは繁殖能力が維持されている個体が多く確認されている。結果、純粋なクサガメとニホンイシガメを両親に持つウンキュウは両者の中間的な特徴を持つと思われるが、そのウンキュウどうしを繁殖させた場合、雑種第２代以降は遺伝的に偏りが生じるため、よりクサガメ的な特徴を持つもの、またはよりイシガメ的な特徴を持つものなどが生まれてくる。また、ウンキュウと純粋なクサガメ、もしくはニホンイシガメとの間に交雑が起こった場合、その子供にはやはり遺伝的な偏りが生じるため、それぞれクサガメ、ニホンイシガメの特徴を強く持つウンキュウが生まれてくる。このことがバリエーションを豊富にしている理由だろう。このように繁殖能力が維持されるという特徴はクサガメとニホンイシガメが生物学的に近縁であることをしめしている。研究者によってはクサガメとニホンイシガメを同属にするべきであるとの考え方もある。しかしながらウンキュウに繁殖能力があるからといって、両者が同種ということはない。自然状態においてクサガメとニホンイシガメという種が明確に保持されている以上、クサガメとニホンイシガメは別種である。

生態：自然状態において本来クサガメとニホンイシガメは好む生息環境にずれがあり、あまり頻繁に雑種を作ることはないと思われる。

備考：**ペットショップで養殖したものが販売され、野生化している。**



ウンキュウ：背甲
2016.09.18.ジュンサイ池本池：写真.名取史織

ウンキュウ：腹甲
2016.09.18.ジュンサイ池本池：写真.名取史織

・・・

ハナガメ(イシガメ科)：学名-*Mauremys　sinensis*　(Gray 1834)

特定外来生物に指定され、飼養・保管・運搬・放出・輸入などが規制されている。

原産：中華人民共和国（海南省、広東省、江蘇省、浙江省、香港、台湾、広西チワン族自治区）、ベトナム北部および中部。ラオスに分布する可能性もあり。

生態：低地にある流れの緩やかな河川や池沼、湿原などに生息し、底質が砂泥の小規模な止水域を好む。

・半水棲だが、岸辺や中州、倒木や岩の上などで日光浴を行うことを好む。

食性：.食性は雑食。幼体は動物食傾向が強いが、暖季およびメスの成体は植物食傾向が強くなる。

備考：**ペットショップで養殖したものが販売され、野生化している。**

ハナガメ：背甲
2016.09.18.ジュンサイ池本池：写真.名取史織

ハナガメ：腹甲
2016.09.18.ジュンサイ池本池：写真.名取史織

・・・

アカミミガメ(ヌマガメ科)：学名-*Trachemys　scripta　elegans*　(Wied-Neuwied, 1839)

日本の侵略的外来種ワースト 100 に指定されている。

分布：自然分布は、アメリカ合衆国（アーカンソー州、イリノイ州、インディアナ州、オクラホマ州、オハイオ州、カンザス州南東部、テキサス州、ニューメキシコ州東部、ミシガン州南部、ミシシッピ州、ミズーリ州、ルイジアナ州）、メキシコ（コアウイラ州北東部、タマウリパス州南部、ヌエボ・レオン州北部）。

・移入は、ハワイ州、イスラエル、イタリア、インド、インドネシア、オーストラリア、エジプト、オランダ、カナダ南部、キューバ、シンガポール、スペイン、大韓民国、中華人民共和国、日本、ベトナム、ポルトガル、マレーシア、南アフリカ共和国、メキシコ中部などに移入・定着。

生態：流れの緩やかな河川、湖、池沼などに生息し、底質が柔らかく水生植物が繁茂し水深のある流れの緩やかな流水域や止水域を好む。

・日光浴を好んで行う。冬季になると冬眠（北部個体群 3-5 か月、南部個体群 2-3 か月）するが、南部個体群では冬季でも気温の高い日には活動する個体もいる。

食性：植物食傾向の強い雑食で、植物の葉、花、果実、水草、藻類、魚類、カエルおよびその幼生、水棲のヘビ、鳥類、昆虫、クモ、甲殻類、巻貝、二枚貝、カイメン、ミミズ、動物の死骸などを食べる。

・幼体は動物食傾向が強いが、成長に伴い植物食傾向が強くなる。

備考：**ペットショップで養殖したものが販売されたものが、野生化している。**

アカミミガメの群れ

2014.03.29.ジュンサイ池育大池：写真.名取史織

アカミミガメ：腹甲

2014.03.29.ジュンサイ池育成池：写真.名取史織

・・・

スッポン(スッポン科)：学名-*Pelodiscus　sinensis*　(Wiegmann, 1835)

環境省のレッドリストでは情報不足（絶滅の前段階）に分類されている。

分布：日本。中国・台湾・韓国・北朝鮮・ロシア南東部・東南アジア。

・日本では本州以南に生息するが養殖場から逃亡した個体に由来する個体群と自然個体群の両方が生息するため、正確な自然分布については不明な点が多い。

・日本国内に生息している個体群は、本州、四国、九州のものは主として在来個体群に起源すると考えられているが、南西諸島の個体群は、過去に中国など海外から人為的に持ちこまれたものが起源と考えられ、その由来の追跡研究も現在行われている。なお、日本国内の個体を亜種 *P. s. japonicus* とする説もある。

生態：生息環境はクサガメやイシガメと似通っているが、水中生活により適応しており水中で長時間活動でき、普段は水底で自らの体色に似た泥や砂に伏せたり、柔らかい甲羅を活かして岩の隙間に隠れたりしている。

食性：動物食の強い雑食で魚類、両生類、甲殻類、貝類、稀に水草等を食べる。

日向ぼっこ

2019.07.03.じゅん菜池：写真.田中直義

産卵

2017.05.27.じゅん菜池：写真.田中直義